

スカボロー・フェア “Scarborough Fair”

P. Simon/A. Garfunkel, 1966 和訳: Yoshy

In YEA of M-PEC on 2011.07.09 (Sat)

**Are you going to Scarborough Fair?
Parsley, sage, rosemary, and thyme
Remember me to one who lives there
She once was a true love of mine**

スカボローの市に行くのかい?
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
それなら、そこに住む娘さんによろしく伝えてくれないかい?
その娘さんは、僕の恋人だったんだ

**Tell her to make me a cambric shirt
Parsley, sage, rosemary, and thyme
Without no seams nor needlework.
Then she'll be a true love of mine.**

彼女に、継ぎ目のない麻布 (01) のシャツを作ってくれと伝えてくれないかい?
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
それができたら、僕たちは真実の愛に結ばれるのさ

**(On the side of a hill in the deep forest green)
(Tracing a sparrow on snow-crested ground)
(Blankets and bedclothes the child of the mountain)
(Sleeps unaware of the clarion call)**

(丘の中腹の深い森の中で)
(すすめの足跡が、雪の積もった地面に続いている)
(毛布を被った寝巻き姿の少年は)
(横たわったまま、呼びかけても眠ったままだ)

**Tell her to find me an acre of land
Parsley, sage, rosemary, and thyme
Between the salt water and the sea strand
Then she'll be a true love of mine**

彼女に、海岸の波打ち際に1エーカーの土地を探してくれと伝えてくれないかい?
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
それができたら、僕たちは真実の愛に結ばれるのさ

**(On the side of a hill, a sprinkling of leaves)
(Washes the ground with so many tears)
(A soldier cleans and polishes a gun)**

(丘の中腹で、木の葉が涙の染み込んだ地面を覆い尽くす)
(兵士は銃を磨く)

**Tell her to reap it in a sickle of leather
Parsley, sage, rosemary, and thyme
And to gather it all in a bunch of heather
Then she'll be a true love of mine**

彼女に、革の鎌で収穫し、ヒース (02) の束に貯めておくように伝えてくれないかい?
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
それができたら、僕たちは真実の愛に結ばれるのさ

**(War bellows, blazing in scarlet battalions)
(Generals order their soldiers to kill)
(And to fight for a cause they've long ago forgotten)**

(血を流しながら大隊が衝突し、うねり、町は焼ける)
(将軍は、兵士に「殺せ」と命じる)
(何故戦うのか? その目的を忘れて、戦う事を命じる)

**Are you going to Scarborough Fair?
Parsley, sage, rosemary, and thyme
Remember me to one who lives there
She once was a true love of mine**

スカボローの市に行くのかい?
パセリ、セージ、ローズマリーとタイム
それなら、そこに住む娘さんによろしく伝えてくれないかい?
その娘さんは、僕の恋人だったんだ

◇注、単語・句の解説は裏面をご覧ください◇

解釈

★ "parsley, sage, rosemary and thyme" の繰り返し句は現代人にはよく理解できないが、象徴的意味に満ちている。

★パセリは今日まで消化の助けになり、苦味を消すと言われており、そして中世の医者はこのことを霊的な意味としても捉えた。

★セージは何千年もの耐久力の象徴として知られている。

★ローズマリーは貞節、愛、思い出を表し、現在でも英国や他のヨーロッパの国々では花嫁の髪にローズマリーの小枝を挿す慣習がある。

★タイムは度胸の象徴であり、歌が書かれた時代、騎士達は戦いに赴く際に楯にタイムの像を付けた。

★歌での話し手は、4種のハーブに言及することで、二人の間の苦味を取り除く温和さ、互いの隔たった時間を辛抱強く待つ強さ、孤独の間彼を待つ貞節、出来ない仕事を果たす矛盾した度胸を具えた真の恋人、そして彼女がそれらをできた時に彼の元に戻って行くことを望んでいる。

★また、一説にはスカボローの市には処刑台があり、そこから魔除けの効果があるとされるこれらの香草が歌に織り込まれたともされる。



Ms. Y's world of Scarborough Fair
Taken on Sun., June 26, 2011.

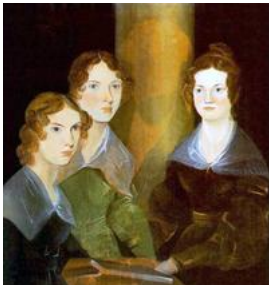


スカボロー SCARBOROUGH (From : http://www.eigomate.com/uk/scarb_study.html)



★スカボローは北ヨークシャー (Yorkshire) の中心、ヨークの北東に位置する、海辺のリゾート地。町は南北の両湾に挟まれ、高台に中世の古城を臨む、国立公園や森に囲まれた最高の環境。16世紀頃から繁栄した街だから歴史こそ浅いが、古くから文化は高く博物館が多い街です。

★アン・ブロンテが29歳の生涯を閉じた地であり彼女の墓は、セントメアリー教会内にあります。エディス・シットウエル (イギリスでは有名) の家も残っていたり、音楽では特に知られている街だけに、オペラの上演も盛んに行われています。映画卒業の中でサイモン&ガーファンクルが歌ったスカボローフェアは有名です。劇場やスポーツセンターもあります。



アン・ブロンテ (Anne Brontë, 1820年1月17日 - 1849年5月28日)

★イギリスの小説家。ヨークシャーのソーントン生れ。

★ブロンテ3姉妹の末妹。彼女はアクトン・ベル (Acton Bell) のペンネームを使用した。

The Brontë sisters, painted by their brother, Branwell, c. 1834. From left to right: Anne, Emily and Charlotte (there still remains a shadow of Branwell, which appeared after he painted himself out).

注01 : cambric

★カンブリック、あるいはチャンプレー (英語: chambray) は、薄手で軽量の綿または亜麻織物。密に織られた丈夫な生地であり、熱と圧力を加えるカレンダーリング加工 (Calendering) により表面に光沢がある。レースや刺繍に用いられ、ハンカチとしても使われる。★「カンブリック」の名は、この綿織物が最初に作られたフランス北部の都市カンブレーを由来としており、起源は1595年までさかのぼることができる。なお、「カンブリック」はイギリスでの名称で、他地域ではバティスト (フランス語: batiste) などの名で呼ばれる。★現在のカンブリックは、エジプトまたはアメリカの綿、あるいは亜麻から作られ、合成繊維を材料とすることもある。



注02 : heath / heather

ヒース (heath) は、本来はイギリス北部、アイルランドなどにおける荒地のことで、独特の背の低い植物が群生する。★また、そのような植物のことを指してそう呼ぶ場合もあり、秋に花を咲かせる野草。農耕に向かない痩せた土地、泥炭地によく生えるといわれる。日本でもそのような地に見られる背の低い草原をこう呼ぶ場合もある。

<Words & Phrases> ・ sea stand : (詩) 岸辺、異境の地 ・ sprinkling : まき散らすこと ・ a sickle of leather : 革の鎌 (かま)
・ clarion : trumpetより1 octave (オクターブ) 高い中世の管楽器、(転じて) 明快なラッパの響き ・ 1 acre : ≒ 4,046.8 m²
・ bellow : (雄牛などが) 吼える、轟 (とどろ) く ・ blaze : 燃え立つ、激怒する ・ battalion : 歩兵大隊、大部隊

<Photo> : 1981年ダブリンでのコンサートにて。右が Paul・Simon、左が Art・Garfunkel。